

BYD ジャパン、 公共交通の電動化を推進する新型電気バスを販売決定

BYD（比亞迪）の日本法人 ビーワイディージャパン株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：劉 学亮、以下 BYD ジャパン）はこの度、日本市場向けの小型電気バス「J6（読み：ジェイシックス）」と大型電気バス「K8（読み：ケーエイト）」の新型車両を開発しました。本日 2022 年 5 月 10 日（火）より予約受付を開始し、2023 年末に納車を開始する計画です。

これら 2 種の新型電気バスには、BYD の新型バッテリー「ブレードバッテリー」を搭載することにより、高い安全性を確保しながら、航続距離を「J6」は約 220km、「K8」は約 270km にまで伸ばすことが可能となりました。

BYD ジャパンは、環境と人にやさしい日本市場向けの新型電気バスの販売を通じて、一層公共交通の電動化を推進し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。



新型「J6」外観イメージ



新型「K8」外観イメージ

【新型「J6」・「K8」販売の背景】

昨今、日本政府が「2050 年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言したことをうけ、内燃機関から電気自動車への転換を図る気運が高まっています。特に、一度に多くの人を運ぶことができ、輸送あたりの CO2 排出が少ない公共交通においては、ディーゼルバス比で最大 4 割の CO2 排出削減効果が見込まれる^(※1) 電気バスが、環境負荷の低減に寄与するものとして関心を集めています。

BYD は、グローバルで累計約 7 万台の電気バスを納入しており、世界中の公共交通の電動化を後押ししてまいりました。

BYD の日本法人である BYD ジャパンは、2015 年に中国自動車メーカーとして初めて日本国内に電気バスを納入して以降、小型・中型・大型の電気バスを販売しています。なかでも、BYD 初の日本仕様車として 2020 年より納車を開始した「J6」は、日本の交通需要にフィットする約 7m の小型電気バスで、狭い路線や地域のコミュニティバスなどに適しています。また、同じく日本仕様車として 2021 年より納車を開始した「K8」は、日本の路線バスに最適な 10.5m の大型電気バスで、日本各地で交通インフラの要としての役割を果たしてまいりました。

これまで日本市場のニーズに応える電気バスを展開してきた結果、BYD ジャパンは累計 64 台の電気バスを納入しており、国内電気バスのシェアは、約 7 割^(※2) に上ります。

カーボンニュートラル社会の実現に向けて国内事業者や自治体における電気バスへの関心が高まるなか、BYD ジャパンは、日本市場のニーズに応える電気バスの販売を通じて、一層電動化を推進するべく、新型「J6」と新型「K8」を販売することといたしました。

(※1) 国土交通省「電動バス導入ガイドライン」URL : <https://www.mlit.go.jp/common/001265917.pdf>

(※2) 2022年5月10日時点、自社調べ。

【新型「J6」・「K8」について】

■新型「J6」主要諸元（参考値）



新型「J6」外観イメージ



新型「J6」内装イメージ

	現行型	新型
車長×車幅×車高	6,990mm×2,080mm×3,060mm	6,990mm×2,080mm×3,060mm
ホイールベース	4,760mm	4,760mm
バッテリー容量	105.6kWh (リン酸鉄リチウムイオンバッテリー)	125.7kWh (リン酸鉄リチウムイオンバッテリー)
航続距離 (※3)	200km	220km
充電時間	約 2.5 時間	約 2.5 時間
充電方式	Type2/CHAdeMO	CHAdeMO
乗車定員	最大 31 人	最大 36 人

■新型「K8」主要諸元（参考値）



新型「K8」外観イメージ



フルフラット仕様で、車内事故防止と車内混雑緩和に貢献

	現行型	新型
車長×車幅×車高	10,500mm×2,500mm×3,360mm	10,500mm×2,500mm×3,360mm
ホイールベース	5,500	5,500mm
バッテリー容量	287kWh (リン酸鉄リチウムイオンバッテリー)	314kWh (リン酸鉄リチウムイオンバッテリー)
航続距離 ^(※3)	250km	270km
充電時間	約 6 時間	約 6.5 時間
充電方式	Type2/CHAdeMO	CHAdeMO
乗車定員	最大 81 人	最大 81 人

(※3) 乗車率 65%、エアコンなしの場合。

■「ブレードバッテリー」について



「ブレードバッテリー」は、BYD が 2021 年に発表した最新型のリン酸鉄リチウムイオン電池（以下、LFP）です。釘刺し試験や高温試験などの各種試験をクリアしており、LFP 本来の高い安定性を確保していることに加え、BYD の革新的な技術によって LFP の弱点であったエネルギー密度が低い点（電気自動車においては、航続距離が短くなってしまう点）をカバーしました。

「ブレードバッテリー」は、“刀”のような細長く平たい形状をしたバッテリーセルそのものをバッテリーパックの 1 つの構造部品としています。そのため、従来の車載用バッテリーで一般的なモジュールを無くし、薄型形状のバッテリーセルをより多くバッテリーパックに収めることが可能となりました。

その結果「ブレードバッテリー」は、バッテリーパックの空間利用率を従来比約 50%高め、エネルギー密度を向上させることに成功し、高い安全性とエネルギー密度を両立しています。

■今後の展開

新型「J6」と「K8」は、本日 2022 年 5 月 10 日（火）より予約受付を開始し、2023 年末を目途に納車を開始する計画です。BYD ジャパンは、2030 年までに小型・中型・大型問わず累計 4,000 台の電気バスを販売することを目指しており、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

以上

製品に関するお問い合わせ

■ビーワイディー・ジャパン株式会社

お問い合わせフォーム

<https://byd.co.jp/contact/>

報道関係お問い合わせ

■ビーワイディー・ジャパン株式会社

広報担当 長井

E-mail : japanpr@byd.com

本プレスリリースに記載された情報（製品仕様やサービス内容、お問い合わせ先など）は、発表日時点のものです。

その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

Copyright (C)2022 BYD Company Ltd. All rights reserved.